

令和5年度生徒指導基幹研修 実施要項

1 目的

いじめ、暴力行為、自殺、不登校などは依然として学校教育推進上の大きな課題となっている。また、生徒指導提要改訂を受け、学校や教育委員会等による、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決の推進が一層求められており、学校の組織基盤を強化する必要がある。

本研修では、学校や当該地域において指導的な役割を果たすべく、生徒指導に関する諸課題について検討・分析するとともに、学校内外の資源をマネジメントした組織的な生徒指導体制を構築するための手法等の習得を図る。さらに、本研修後の実践を通して、1) 生徒指導に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や当該地域において教職員の専門性向上を推進する力、を育成する。

2 主催 独立行政法人教職員支援機構

3 共催 文部科学省

4 期間

受講者は、令和5年8月1日（火）から令和5年8月31日（木）までの期間中、任意の3日間を選択して受講する。

5 実施方法 学習管理システムを用いたオンライン研修

6 配信元 独立行政法人教職員支援機構 事業部事業企画課
〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

7 標準定員 200名

※標準定員は設定しているが、推薦人数に上限は設けない。

8 受講者

(1) 受講資格

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者
- ② 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等であり、各学校や当該地域において本研修の内容を踏まえて指導的な役割（研修の企画・立案・実施・評価等を含む）を果たす者
- ③ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生

※ 「第5次男女共同参画基本計画」（令和2年12月25日閣議決定）を踏まえ、本研修における女性教職員の割合を10%以上とすることを、当機構として目標としている。女性の積極的な推薦について配慮すること。

(2) 推薦人数

都道府県・指定都市・中核市等ごとの推薦人数に、制限は設けない。

(3) 推薦手続

推薦期限は、令和5年6月19日(月)とする。

各都道府県・指定都市教育委員会、都道府県知事部局、国公立大学法人、独立行政法人国立青少年教育振興機構及び教職大学院を置く各大学においては、「研修システム」により推薦を行う。

中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

(4) 受講者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。

9 研修内容

別紙1「日程表」のとおりとし、受講者は研修終了後に「課題レポート」を提出する。なお、様式、提出方法等については、受講決定時に別途連絡する。

10 事前課題

(1) 研修成果活用計画書の作成

受講者および所属長は事前に「研修成果活用計画書」を作成し、提出すること。なお、様式、提出方法等については、受講者決定時に別途連絡する。

(2) その他の事前課題

その他の事前課題がある場合は、受講者決定時に別途連絡する。

11 研修成果の活用

本研修は、受講者の研修成果を各学校や当該地域で活用することを前提としている。そのため、研修終了後1年程度の期間を経た後に、研修成果の活用状況(研修企画、研修講師、他校訪問等)についてのアンケート調査を実施する。推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会の提供、確保等の配慮をすること。

12 その他

(1) すべての講義を受講し、「研修計画書」を提出した受講者には、修了証書を授与する。受講者推薦の際に、必ず受講者の氏名を確認し、正確に記入すること。

(2) 本研修は、学習管理システム「学びばこ」(株)テクノカルチャー)を用いて研修を配信するものである。なお、「学びばこ」は専用のソフトウェアやアプリケーションをダウンロードする必要がなく、対応するブラウザであればスマートフォン等の端末からも受講可能である。

(3) システム上は時間・場所を問わずに視聴可能であるが、受講者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な受講環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。

(4) 本研修の受講に際し、特別な配慮が必要な者(障害、持病等)を推薦する場合には、事前に当機構に相談すること。

令和5年度 生徒指導基幹研修(案)

9:00											16:00										
1 日 目	第1講 講義・演習		生徒指導に関する現状と課題 (50分)	リフレクション (25分)	第2講 講義・演習		生徒指導の基本的方向性 (50分)	リフレクション (25分)	昼 休 憩	第3講 講義・演習			生徒指導の基礎 (90分)	リフレクション (60分)							
	生徒指導に関する現状と課題 (50分)				生徒指導の基本的方向性 (50分)					生徒指導の基礎 (90分)											
	文部科学省				生徒指導提要改定のねらい 重要なポイント等について (関係機関との連携・協働、法規)					提要1部の1章および2章の内容 いじめや問題行動が起きない温かい学校、学級づくり等(発達支持的、プロアクティブ)											
2 日 目	第4講 講義・演習		法の理解に基づく生徒指導 (50分)	リフレクション (25分)	第5講 講義・演習		チーム学校としての生徒指導体制 (50分)	リフレクション (25分)	昼 休 憩	第6講 講義・演習		暴力行為の理解と対応 (50分)	リフレクション (25分)	第7講 講義・演習		少年非行の理解と対応 (50分)	リフレクション (25分)				
	法の理解に基づく生徒指導 (50分)				チーム学校としての生徒指導体制 (50分)					暴力行為の理解と対応 (50分)				少年非行の理解と対応 (50分)							
	関連する法令等は第1講、第2講の講義で取り 扱い、このコマでは事例中心とする				提要第1部第3章の内容をもとに、SC、 SW、関係機関との具体的な連携・協働に関 する事例を取り扱う					第3講 生徒指導の基礎を学んだ後、暴 力行為を中心として、事前・事後等の 対応について検討等を行う				第3講 生徒指導の基礎を学んだ後、 少年非行を中心として、事前・事後等 の対応について検討等を行う							
3 日 目	第8講 講義・演習			学校危機と向き合う生徒指導 (90分)	リフレクション (60分)	第9講 講義・演習			昼 休 憩	第10講 講義・演習		研修成果の活用 (75分)	閉 講 に あ た っ て								
	学校危機と向き合う生徒指導 (90分)					事例研究の意義と方法 (50分)		研修成果の活用 (75分)													
	～リスクマネジメント～ (45分)		～クライシスマネジメント～ (45分)			生徒指導のための教職員の研修につ いて		教職員支援機構													
	第3講 生徒指導の基礎を学んだ後、自殺を中心として、リスクマネジメント・クライシ スマネジメントに関する講義を行う																				

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人演習の時間です。
 ※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講してください。